としょぶらり

ISSN 1344－5634
米子高専図書館報
第１１３号
令和４年３月　発行
米子工業高等専門学校図書館

『ブックハンティング』を開催

2022年1月17日（月）放課後、今井書店錦町店に学生が出掛けて行って、「ブックハンティング」を実施しました。ブックハンティングは、米子高専図書館の利用者に「これはぜひ読んでほしい」と思う本を、学生の目線で選ぶこと。また、そうした本を配架することで、利用者の増加など活性化を促すために行ったものです。

当日は寒い日でしたが、参加した学生５名と教職員がそれぞれ、店内の書棚をいろいろ見て回りながら、思い思いの本を手に取ったり、意中の本を探したりして、本と触れる温かな時間を過ごせました。

4M　岩﨑　弘希

自分はよく小説を読むため、ブックハンティングでも小説を中心に本を探しました。最初の一冊は、あらかじめ決めていた本を選んだため時間はかかりませんでしたが、次からが大変でした。

自分が基本的に買う本はシリーズ物が多く、単行本を選ぶ経験が少なく、迷ってしまいました。かといって、シリーズ物は当たり外れが大きく、選ぶのをためらってしまいました。結局自分が選んだのは無難な推理小説となりました。もし次の機会があればもっと攻めた本を選びたいと思います。

2D　三井　朱寧

ブックハンティングに参加して、前から読みたかった本を選ぶことができて良かったです。店頭で実際に選ぶことで、新たな本に出会えたり、話題の本を知ることができたりしてとても楽しかったです。自分の選んだ本が図書館に並ぶことがとてもうれしく思います。また、他の方が選んだ本を読むことによって、普段読まないジャンルや作家さんを知ることができるのも楽しみです。

3C　津村　紘華

今回ブックハンティングに参加させてもらって自分が選んだ本が学校の図書館で見られるとは思っていなかったのでとてもうれしいです。実際に本屋さんに行って学校に置いてほしい本を選ぶのは楽しかったし、とても悩んでしまいました。その中でもおもしろい本がたくさん集まりました。図書委員だけでなくたくさんの人が参加し厳選した本をぜひ図書館に借りにきて読んでみてください。

ブックハンティングをしている学生

卒業研究など多忙で参加できなかった図書委員からも後日、ブックハンティングでおすすめの本のタイトルと推薦文を提出してもらいました。合わせて50冊の本を購入することにしました。

その一部を列挙すると、『眠れなくなるほど面白い 図解 聖書』、『100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』、『本当の自由を手に入れる お金の大学』などです。「SDGs」（持続可能な開発目標）に関する本もあります。

各自が選んだ本について紹介するポップや短文と一緒に、新年度、ブックハンティングのコーナーに並んでいると思いますので、皆さん見に来て、借りて読んでみてください。

「全国高等学校ビブリオバトル2021鳥取県大会」への出場報告

校内で「ビブリオバトル」を開催し（『としょぶらり』前号（第112号）を参照）、参加者の中から3D加藤崇くんが学校代表として鳥取県大会に出場しました。県大会は鳥取県教育委員会の主催で、2021年12月12日（日）に倉吉体育文化会館で県内13校の代表者が参加して、予選・決勝が行われました。

3D　加藤　　崇

県大会では、校内予選で紹介した『源氏物語』から、額賀澪さんの『沖晴くんの涙を殺して』という小説に本を変更してプレゼンをしました。せっかくなので、少し内容を紹介しようと思います。

この作品は、今年で発生から11年が経った東日本大震災がベースにあります。主人公の沖晴は死神と取引をして、津波から生還する代わりに喜び以外の感情を奪われた少年です。この小説は、震災から9年が経ったときに、唐突に帰ってき始めた「悲しみ、怒り、恐れ、嫌悪」の4つの感情に戸惑う沖晴と、癌を患い余命1年を宣告された女性、踊場京香が織りなす、喪失と成長の物語となっています。

本番では予選のトップバッターとなりましたが、想像よりも緊張せず、額賀さんの作品のどこか救いがなく残酷でありながら、美しい世界観について語りきれたと思います。予選敗退という結果でしたが、質疑応答の時間も含めて自分的には満点のプレゼンができました。

県大会では、結構勝ちを意識してプレゼンする人が多い印象でした。しかし張り詰めた雰囲気はまったくなく、予選が終わった後は他のバトラーの方々とそれぞれの紹介した本について語り合うことができ、本当に楽しかったです。バトラーの方々はあまりコミュニケーションが得意でない人が多いようでしたが、本のことになると饒舌になり、話し始めるとなかなか終わりませんでした。私も自分がこの本のどこが好きだと思ったのかについて真剣に考えることで、より紹介した本の面白さに気づくことができました。特にどうすれば勝てるというコツがあるわけでもないようなので、ビブリオバトルに出たことがある人も、ない人も、勝ち負けを気にせず気軽に参加してほしいなと思います。

プレゼン（予選）の様子

最後に、額賀さんの作品はどれもどこまでも現実的な世界が、美しい文章で紡がれた傑作ばかりです。中でも今回紹介させていただいた『沖晴くんの涙を殺して』は、今私たちが生きているありふれた日常が、どれほど愛おしいものであるかを気付かせてくれる作品です。

プレゼンの最後を私はこんな言葉で締めくくりました。「この世界を悲しみとともに生きる人に。この世界に怒りながら生きている人に。この世界を恐れ、嫌悪している人に。そして、この世界を喜びとともに生きるあなたに。私はこの本をおすすめします。」きっとあなたも額賀作品の虜となるはずです。ぜひ読んでみてください。

出場者の集合写真

新コーナーの紹介　小説からヤングアダルトまで

学術情報係　小田　千晶

今年度より、「米子高専図書館ベストセレクション」と「高専図書館の片隅で」という2つの新コーナーを設けました。コンセプトは【知らないなんてもったいない！】です。

図書館には、多種多様な本があるので、どうしても「良い本なのに手に取ってもらえない」という本は出てきてしまいます。そこで、少しでも多くの学生にそんな本と出会ってもらおうと思い、各系統の本棚から選書を行いました。

その結果、今までばらばらに配架されていた新書や、写真集をそれぞれまとめたことで、より多くの人の目に触れる機会が増えました。また、近くに似たジャンルの本を配置したので、一緒に借りていく学生の姿も見受けられるようになりました。

図書館にはまだまだたくさんの本が眠っています。ぜひ色々な本を手に取ってみてくださいね！

新コーナー

「米子高専図書館ベストセレクション」

文庫および小説・海外の翻訳小説・新書などを集めています。

例えばこんな本があります。

『六番目の小夜子』　著：恩田陸

とある県立高校で続く謎のゲーム、「サヨコ」。始まりの合図は、赤い花。そして同じ名前の転校生がやってくる。
偶然か必然か。六番目の今年、何かが変わる予感がする・・・。

「高専図書館の片隅で」

ノンフィクション・建築および美術写真集・自己啓発書などを集めています。

例えばこんな本があります。

『のこされた動物たち　福島第一原発 20 キロ圏内の記録』　著：太田康介

3.11 発生後、人間は原発から離れた地域へ避難するよう告げられました。
けれど、家族の一員であった動物たちは、一緒に行くことができませんでした。
あの未曽有の大災害から 11 年。もう一度、考えてみませんか？

『としょぶらり』のバックナンバー

今年度、図書館の広報誌『としょぶらり』（『彦名通信』に収録）を第 111 号（6 月）、第 112 号（12 月）、第 113 号（3 月、本号）と 3 回発行しました。これまでの『としょぶらり』から少し内容を変えてみたところもありますが、いかがでしたでしょうか。

コロナ禍の中、図書館の利用者数や図書の貸出冊数は減少しています。デジタル化など社会情勢が変化する中、図書館の役割やあり方も見直しや再考が必要と思っております。

これまで発行されてきた『としょぶらり』は、平成 16 年 6 月の第 77 号以降を、図書館のホームページに掲載していますので、ご覧いただければと思います。

日本海新聞「新聞感想文コンクール」で入賞

「第７回 日本海新聞・児童生徒新聞感想文コンクール」（主催：新日本海新聞社、日本海新聞を発展させる会、後援：鳥取県教育委員会）で、３Ｃ細田めい子さんが「高校生の部」の優良賞を受賞しました。

2021 年６月 24 日の日本海新聞の「『世界標準』ほど遠く」―最高裁の判断が変わらなかった―という記事を読んで、日本の夫婦同姓制度について考えた内容で、「夫婦別姓が認められるためには、裁判の中に新しい風を入れることが必要」、夫婦同姓の問題だけでなく「世界標準で考えて変化させていくことがこれからの社会では大切」と述べています。

3C　細田　めい子

今回の新聞感想文コンクールでこんな賞をもらえるとは思っていなくて、とても驚きました。私が書いたのは最初に見た新聞に載っていた、夫婦別姓に関するものです。ニュースでチラッと聞いたことがある話題だったので見てみると、裁判では夫婦別姓を認めないのは違憲ではないという判決が出されたというもので、疑問に思ったので気になってこれについて書こうと決めました。

詳しく読んでみると、そもそも裁判官に女性が少なかったり高齢だったりして、それでは公正というか現代の価値観に合った判断が出来ないのではないかと思って、それについてまとめました。家では新聞を取っていないしあまり見る機会がなかったのですが、新しい発見や思うところがあって、新聞を見るのも大事だなあと思えたいい機会でした。

コンクールは、次代を担う児童生徒が新聞に親しむとともに、記事の感想文を書くことで読解力や表現力、社会への関心を高めてもらうことがねらい。高校生の部には 718 点の応募がありました。優秀学校賞に米子高専が選ばれています。

新聞を学校や家庭での学習に活用することで、社会への関心を高め、自分ごととして考えを深めることにつながります。学校などで新聞を教材として活用する活動を「ＮＩＥ」（Newspaper in Education）と呼んでいます。1930 年代にアメリカで始まったものです。

図書館には、地元の日本海新聞、山陰中央新報、全国紙の読売、朝日、毎日、日本経済（日経）の各新聞があります。読んで／読み比べてみませんか？　おもしろい記事や役立つ記事があると思います。

図書館の業務・活動等

12月12日（日）全国高等学校ビブリオバトル2021鳥取県大会（倉吉体育文化会館）
12月20日（月）図書委員会（第4回）
１月12日（水）図書部会（第6回）
１月17日（月）ブックハンティング
１月18日（火）～2月12日（土）臨時休館（臨時休校・遠隔授業等に伴うもの）
２月21日（月）図書部会（第7回）
２月25日（金）図書館運営委員会（第3回）